

「外房 白子中心の郷土読本」シリーズ

1 「板倉 中 物語」 (平成20年3月 秋谷 忍 著)

板倉 中 (1856-1938) ○普通選挙運動に情熱をささげた政治家



関地区に生まれ、弁護士として活動するかたわら、県議会議員に当選し、34歳の若さで県議会議長に就任。

その後、国会議員に当選し、当時、一部の人にしか与えられていなかった選挙制度を国民全体に広めるため、普通選挙運動に情熱をささげた偉大な政治家である。関の玄徳寺に墓がある。

2 「俳匠 前田普羅」 (平成22年3月 野口 祐輔 著)

前田普羅 (1884-1954) ○白子町出身の俳人



関の前田丑松の長男で本名は前田忠吉。

早稲田大学中退後、横浜裁判所に勤務しながら俳句を作り、俳誌「ホトトギス」に投句し高浜虚子に認められ、高浜虚子門下四天王の一人といわれている。

1924年(大正13年)、報知新聞記者時代、富山で俳誌『辛夷』を創刊し、会員の指導で全国的に活躍した。

3 「大多和 興四郎物語」 (平成24年3月 秋谷 忍 著)

大多和 興四郎 (1880-1938) ○リンゴ病を発見した医師



関地区出身で現在の大多和医院の初代院長。

九州大学病院内科医・小児科に勤務していた当時、友人と共同で研究し、1912年(大正元年)、伝染性紅斑病(リンゴ病)を日本で初めて発見し、リンゴ病がウィルス性の病気であることを突き止めた。

4 「寺部頼助物語」 (平成25年3月 秋谷 忍 著)

寺部 頼助(1889-1972) ○東京オリンピック招致に情熱をささげた政治家



1889年(明治22年)、中里に生まれ、中里の尋常小学校の卒業生である。

その後、大学へと進学し、浅草の寺部学校を経営する寺部家の養子に迎えられ、第4代校長として尽力した。後年、浅草区から東京市議員に当選し、東京市長から託された第12回オリンピック東京大会開催に向けて大変な努力をした。

5 「第二十四代木村庄之助物語」 (平成26年3月 秋谷 忍 著)

木村 庄之助(1901-1973) ○名勝負をさばいた名行司



白子町に生まれ、小学校の初めごろ、大相撲を目指して入門し、苦しい練習に励んだ。後に行司として頑張り、最後の一番だけさばく最高の位に就いた。

その間、さまざまな苦勞があり、幼いころ遊んで仲が良かった友人に励まされ、あきらめずに困難を乗り越えた。

そして、1963年(昭和38年)大相撲の第二十四代木村庄之助」という最高の行司にまで上りつめた。

6 「白子の青ノリ物語」 (平27年3月 秋谷 忍 著)

南白亀川での青ノリ漁

○味と香りが自慢の南白亀川の特産物



明治4年、南白亀川の海水と真水が混ざる汽水域で白子の青ノリ生産が始まった。青ノリ養殖は盛んになると、白子の青ノリは、味・香り・色が抜群であると絶賛され、白子の特産品として評判がよかった。

その後、川の汚れ等、水質の悪化でとれない年が続いた。生産者の組合員が協力して、川をきれいにする運動を

展開するなど、生産が回復したが、近年は、また、不作が続いている。

7 「前田 留吉物語」 (平成29年3月 秋谷 忍 著)

前田留吉 (1840-1902) ○日本初の牛乳搾乳業に成功した郷土の偉人



前田留吉は、江戸末期に当時の関村に生まれた。幼少の頃から体力と先を見る能力、意志の強さはきわだっていた。

苦勞の末、横濱で日本初の「牛乳搾取業」を営んだ。この技術が明治の新政府に引き立てられ、東京で大活躍して成功を収めた。また、明治天皇に牛乳搾りをご覧に入れるという光栄にも恵まれた。

8 「片岡修徳物語」 (令和元年9月 鵜澤 洋 著)

片岡修徳 (1855-1928) ○網主から地域の発展に尽くした人物



片岡修徳は、安政2年生まれで、網主片岡家に見こまれて婿となった。もとより、誠実で真面目な人柄は、地域より信頼され、漁業も家も大いに栄え、やがて政治の道へと進み県議会議員となった。

政治家として、白潟郵便局の開設、本納・白潟間の県道誘致、開通等を行い、地元の発展に貢献した。

9 「松瀉用水を実現した石和田文弥物語」(令和5年5月 秋谷忍 著)

石和田文弥 (1887-1973) ○松瀉用水実現に苦闘した大正・昭和期の人物



石和田文弥は、明治20年生まれで、明治44年に幸治の石和田家に婿入りした。昭和15年には、白瀉村の村長に選ばれ活躍した。

この間、地元で水不足に悩んでいた水利事業に取り組み、苦難の連続にも屈せず一宮川から水を引く「松瀉用水」の完成を実現し、不滅の功績を残した人物である。